

商大生が 田植えを体験

去る6月9日、本学の相内俊一教授とその呼びかけに応じて集まった学生6名らにより、仁木町の紅果園において、本学の日本酒「小樽緑丘」に用いられる酒米「彗星」の苗の田植えが行われました。この田植えは、米（酒）の生産・消費過程に関わることにより日本の農業問題を考える足がかりを作ると共に、農作業の体験を通して普段意識の中になかった農業を認識してもらい、また、自分の植えた苗が酒となる喜びを知ってもらおうとの意図の下に企画されました。

当日はあいにくの曇天でしたが、参加した学生ら（田植え未経験者がほとんど）は農園主である寒河江仁氏の指導の下、歓声をあげながら苗を手植えし、その成果は、寒河江氏によれば上出来だとのこと。ちなみに、紅果園では今年、「彗星」のために5反の田を用意し、10月には約2.5tの収穫を見込んでいます。

田植えを終えた学生の感想は「面白かった」、「泥の感触が気持ちよかった」と好評であり、また、早くも「収穫期には稲刈りに来たい」との声も聞かれました。相内教授は今後もこの催しを続けたいとしており、田植えから稲刈り、さらには酒の仕込み（一番大切なのは試飲？）に至るまでの学生・教職員の参加が、商大の新たな年中行事と化すかもしれません。



純米吟醸酒
小樽緑丘

【おたるりょつきゅう】

酒饅頭

商大饅頭

【しょうだいまんじゅう】



商大グッズ好評です

今年3月17日の卒業式に販売を開始した商大グッズ、日本酒「小樽緑丘」と酒饅頭「商大饅頭」は、卒業生や学生の父母の方々を中心に、予想以上の売れ行きで、大変好評をいただいています。4月6日に小樽市民会館で行った入学式では、田中酒造や大学生協の職員がロビーで販売し、入学内祝やお土産用にセットで買い求める保護者が多く見られました。

また、「小樽緑丘」の包装形態や価格、「商大饅頭」の賞味期限等に対する要望や、販売場所を増やしてほしい等のご意見も多く寄せられており、今後もよりよい商品とするために検討を重ねていきたいと考えています。更に、他のグッズの企画についても様々なアイデアが寄せられておりますが、大学の存在を市民の方々に知ってもらい、イメージアップに繋がるようなグッズの開発を行っていきたくと考えています。